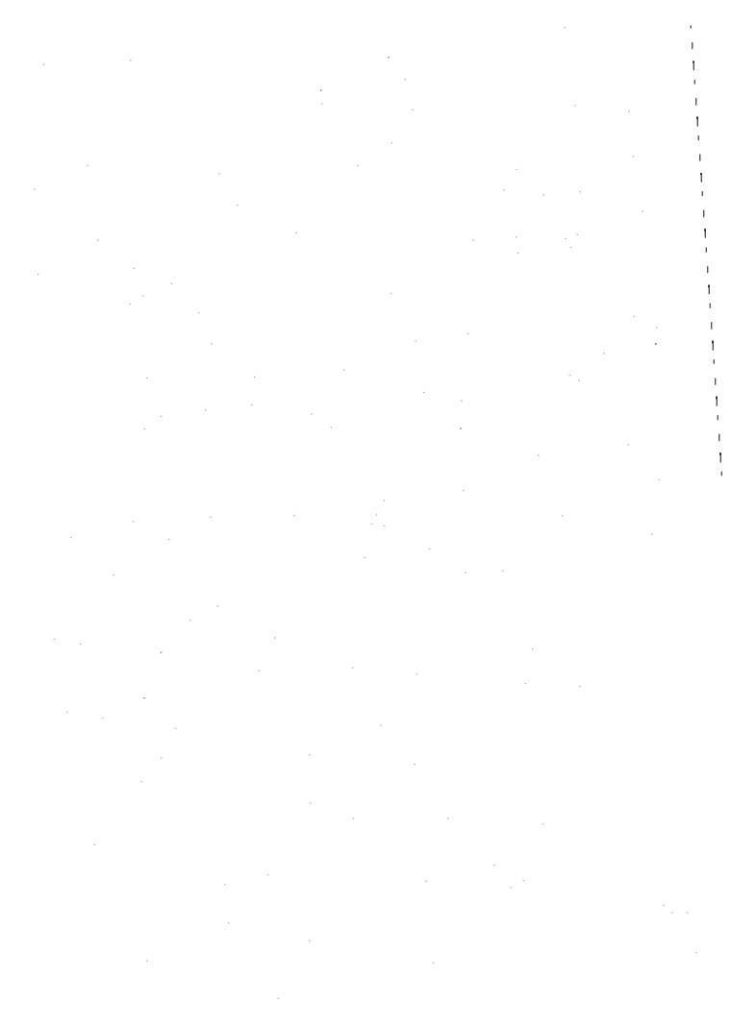


横須賀城跡確認調査報告書

(富士電化(株)工場地内)

1986

大須賀町教育委員会



横須賀城跡確認調査報告書

(富士電化(株)工場地内)

1 9 8 6

大須賀町教育委員会

例 言

1. 本書は、富士電気化学株式会社大須賀工場の工場拡張計画に伴い実施した確認調査の報告である。
2. 調査期間は、昭和61年10月26日～11月6日にわたって実施したものである。
3. 調査費用は、富士電気化学株式会社が負担した。
4. 発掘調査は、木佐森道弘（菊川町史編さん資料委員）が担当した。
5. 調査の実施にあたっては、静岡県教育委員会文化課の指導と、水島和弘氏の協力を得た。

調査主体 大須賀町教育委員会

調査員 木佐森道弘（菊川町史編さん資料委員）

作業者 藤田長吉・戸塚重一・戸塚又一・金丸久子・粕谷一江
加藤きぬ枝・平松重太郎・鈴木藤市

6. 本書の執筆は、第1章を松本すが子が分担し、他は木佐森道弘が行った。
7. 本書の編集は、木佐森道弘が行った。
8. 調査に関する事務は、大須賀町教育委員会（事務局長 清水興一 係長 水口英夫・担当 松本すが子）が行った。
9. 実測図・写真および出土遺物は、大須賀町教育委員会が保管している。

目 次

第1章	調査に至る経過	(1)
第2章	調査の方法と経過	(2)
第3章	トレンチの観察所見	(4)
第4章	遺物	(8)
第5章	まとめ	(9)

挿 図 目 次

- 第1図 横須賀城跡位置図
- 第2図 トレンチ配置図
- 第3図 Aトレンチ拡張区実測図
- 第4図 Aトレンチ土層図
- 第5図 Bトレンチ実測図
- 第6図 Cトレンチ実測図
- 第7図 出土遺物実測図

図 版 目 次

- 図版1 Aトレンチ完掘状況（西から）
Aトレンチ土層写真・落ち込み部分
- 図版2 Aトレンチ落ち込み部分（南から）
Aトレンチ法面の竹根（南から）
- 図版3 Bトレンチ完掘状況（西から）
Bトレンチ落ち込み（西から）
- 図版4 Bトレンチ落ち込み（東から）
Bトレンチ沼状遺構（東から）
- 図版5 Cトレンチ完掘状況（南から）
Cトレンチ配石の出土状況（西から）
- 図版6 Cトレンチ土層写真（東から）
Aトレンチ拡張区全体写真（北から）
- 図版7 Aトレンチ拡張区全体写真（東から）
Aトレンチ拡張区落ち込みライン検出状況（北から）

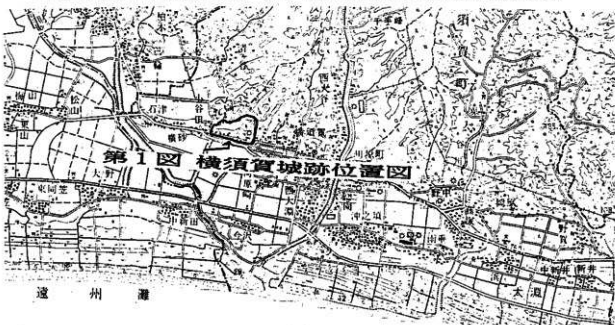
第1章 調査に至る経過

大須賀町は、昭和56年に国史跡に指定された「横須賀城跡」を始め、奈良時代から鎌倉時代の古窯跡群など多くの遺跡が分布している「歴史の町」である。一方近年町内には、多くの工場も誘致され、工業化・近代化も他の都市と同様に進んできている。このような状況にあって、企業のひとつである富士電気化学株式会社大須賀工場（富士電化）より工場の拡張計画が町に提出された。

富士電化は、現在地に昭和30年代に進出し、昭和43年より操業を行っている有力な企業で、横須賀城跡の東側に位置している。そのため工場拡張計画地内には、城に関係した遺構のあるおそれがあるため、工場側と協議を行った。その結果文化財に多大な理解を頂き工場計画内の確認調査を実施するに至った。

調査は、トレンチによる遺構の確認に留めるという関係者の協議の上で実施し、当面の工場の拡張計画のある部分については、確認の範囲を拡げて遺構の残存状況の調査を実施した。

調査期間は、調査地が工場の駐車場であることから2週間を限度とし、工場の休業である日曜・祭日も調査を続行するところとなった。



遠州藩

第2章 調査の方法と経過

調査の方法

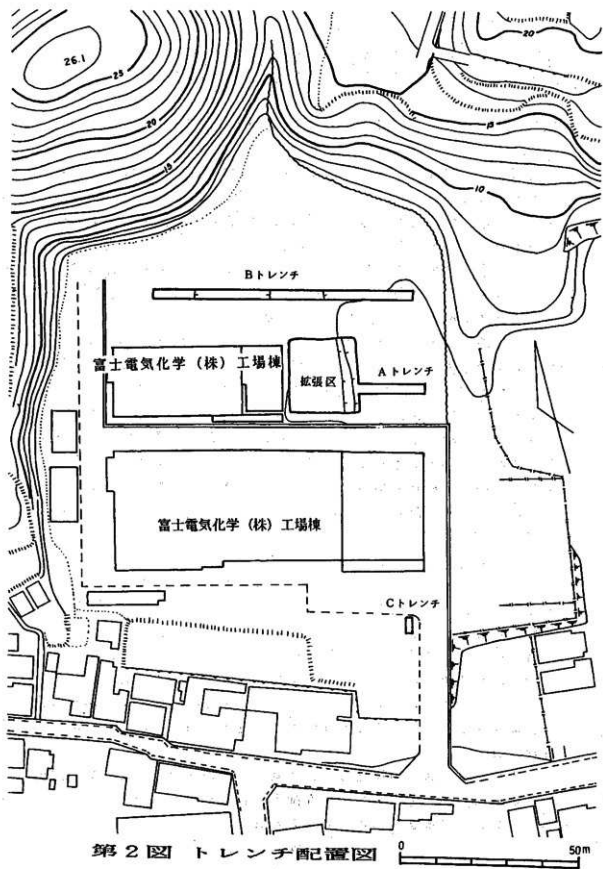
調査対象区は、現在工場の駐車場となっており、関係者と相談をしながらの調査となった。

工場の北側に広がる駐車場に、工場の建物と平行して、二本のトレンチを設定し、南側のトレンチをAトレンチ・北側のトレンチをBトレンチとした。又工場の南側入口には、Cトレンチを設定した。トレンチの幅は、A・Bが2.5m、Cトレンチは2mとした。

Aトレンチの一部については面的に捉えるために、東西19m南北20mの範囲に拡張して行った。調査は、従業員の駐車場の関係からAトレンチをいったん埋め戻して、Bトレンチ終了後にあらためて拡張するという方法をとった。

調査の経過

- 10月26日 Aトレンチ設定・BMの移動を行う。
- 10月27日 Aトレンチの西側から重機で表土を剥ぎ、さらに人力で遺構の検出を行う。中央付近で、東側に落ち込む法面を検出する。
- 10月28日 Aトレンチの実測・写真撮影を行い埋め戻す。
- 10月29日 Bトレンチを設定し、調査をしたところトレンチ西側で沼状の遺構、中央付近で東へ落ち込む法面を検出した。これらの遺構を実測・写真撮影、埋め戻し作業を開始する。
- ～31日
- 11月1日 Bトレンチの埋め戻しを完了する。
- 11月2日 あらためてAトレンチ拡張区を設定し、調査を行う。同時にCトレンチを設定し、人力により表土剥ぎを開始する。Cトレンチ表土直下で硬化面を検出したので、排土を中止し、精査して遺構検出・土層観察を行う。
- 11月3日 Aトレンチ拡張区にて東へ落ち込む法面のラインを検出Bトレンチ方面へ向いているのを確認する。Cトレンチの実測・写真撮影を行う。
- 11月4日 Aトレンチ拡張区の写真撮影を行う。その後工場の建物に平行して、測量杭を打ち、実測準備を行う。



11月5日 Aトレンチ拡張区の実測、午後より埋め戻しを開始する。

11月6日 埋め戻し完了後、機材を撤収し現地調査を終了する。

第3章 トレンチの観察所見

○ Aトレンチ

西側の平坦面は、工場の造成工事の時に削平されており、建物跡などの遺構は検出できなかった。しかし、トレンチの中央部では、東へ深く落ち込む法面を検出した。法面は、基盤を深く掘込み、東側に3m程の幅で下がるかたちで層状に堆積しており、上部は基盤と同じく、造成時に水平に削平されている。又法面の表土との境界付近には、竹の根が多量に残っていた。この竹根は、法面の崩壊を防ぐために、法面を覆う様に植生していた竹の根と考えられる。

法面を埋める東側の埋土の中には、竹や木などが無造作に埋まっており、又埋土の上部には、多量の砂利が入っている。この土層の観察から工場造成時に、西側から重機で、表土（遺構面）立木・法面の上部等々を削り取り東側の外掘方向へ押し込んだものと考えられる。

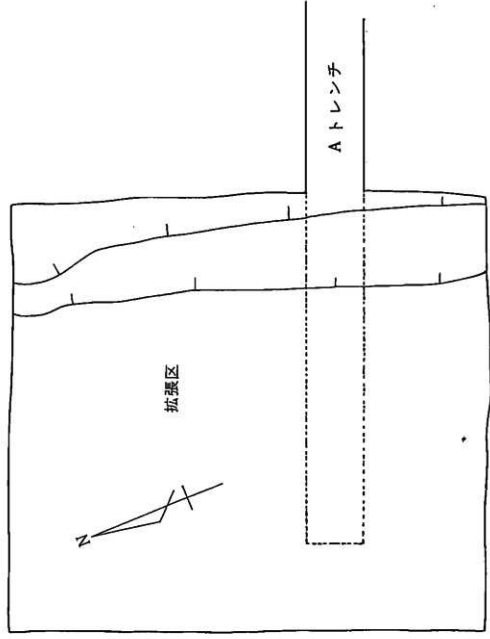
落ち込みの深さは、法面に沿って重機の限界まで深く掘削してみたが、法面の下部と基盤までは到達しえなかった。又多量の出水があり、トレンチ崩壊の危険を感じたので、直ちに埋め戻さざるをえなかった。しかがって今回の調査では、法面の落ち込みは相当深いという確認にとどめた。

○ Aトレンチ拡張区

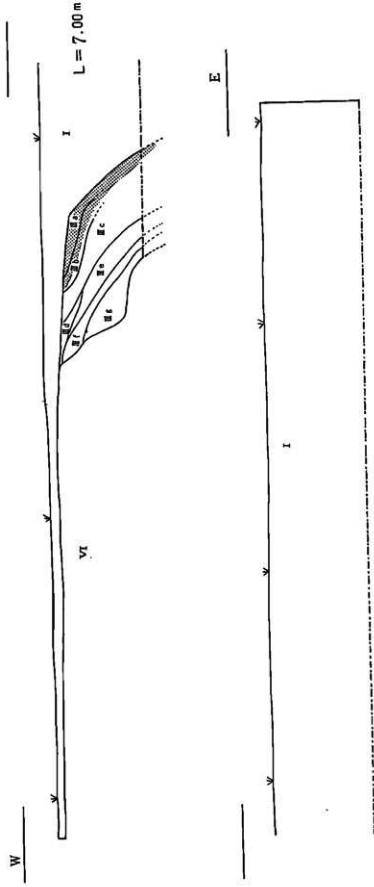
Aトレンチで検出した落ち込みの性格を探るために、トレンチの西側を20m×21m程の範囲に拡張した。この調査区をAトレンチ拡張区と呼ぶこととした。

調査の結果、基盤の落ち込むラインと、竹の根の張った法面のラインの二本を確認した。ラインは3m程の幅で平行して南北に走っている。又このラインは、後で述べるBトレンチで検出した落ち込みの方向に向かっており、さらに松尾山の東の空堀方向へ延びているように観察された。

以上のことからこの法面は「三ノ丸」の平坦面から、その東側の外掘へ落ちる法面と考えられ、一部削平されているものの「三ノ丸」の範囲を知る上で重要であると考えられる。



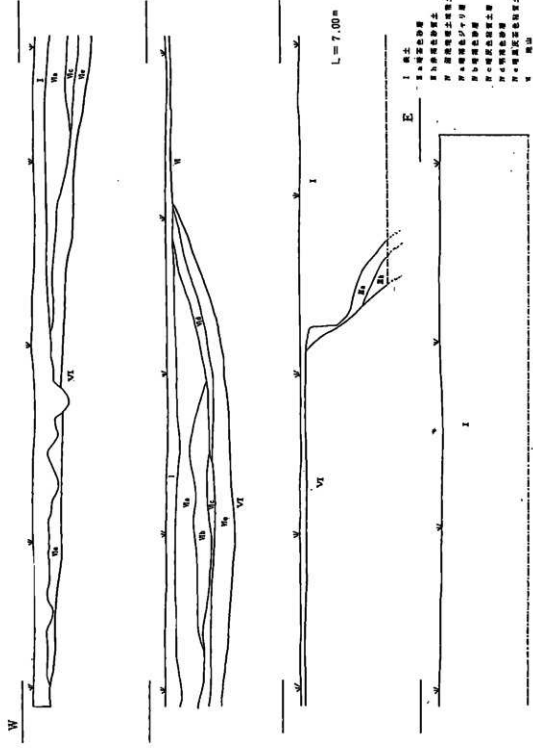
第3図 アトレンチ拓縁区実測図



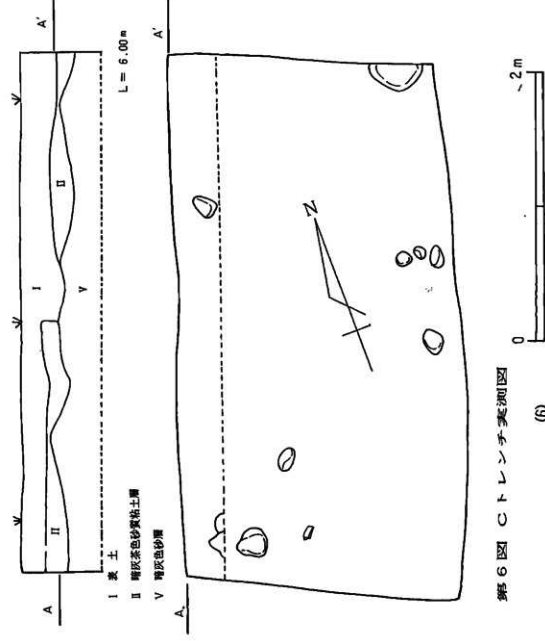
- I 黄土
 II 砂質黄土
 III a 褐色砂質土層
 III b 褐色細砂質土層
 III c 褐色粗砂質土層
 III d 褐色細砂質土層
 III e 褐色粗砂質土層
 III f 褐色粗砂質土層
 III g 褐色粗砂質土層
 III h 褐色粗砂質土層
 III i 褐色粗砂質土層

■ 地質断面の概観

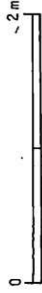
第4図 アトレンチ土層図



第5図 Bトレンチ実測図



第6図 Cトレンチ実測図



○ Bトレンチ

中央でAトレンチと同じ落ち込みと思われる法面を確認した。しかし、Aトレンチで観察したほど法面の堆積は、顕著では無く、工場造成時に攪乱された可能性も考えられる。

Aトレンチ拡張区の法面ラインとBトレンチで確認した法面ラインから推定すると両法面は、松尾山の東の空堀へ向かって延びている様である。

Bトレンチの法面の落ち込みより西側部分では、沼状の遺構を検出した。遺構は、トレンチの中央付近から西へ向けなだらかに落ちこんでゆき、底に堆積する暗黒灰茶色粘質土から判断して、池沼地だったと思われる。又この暗黒灰茶色粘質土の中には、径1cm程度の弥生式土器の破片と思われるものが、いくつか散見できた。又暗黒灰茶色粘質土の上に堆積する土層は、横須賀城の造成に関係する埋め土の可能性が強い。古地図によると、三ノ丸の西側部分に池沼が描かれていて、牛池と呼ばれている。又本丸の南東には、三日月池と呼ばれる三日月形の池沼が現存している。現在横須賀城の初期の姿として、本丸・松尾山・北ノ丸・西ノ丸等があげられており、三ノ丸は時代が下がって、11代城主井上正利による城地拡大の際、城地に取込まれたとも考えられている。したがって、それ以前は三ノ丸の西側、つまり本丸・北ノ丸・西ノ丸等をとり囲むように堀が存在していたとし、三日月池・牛池は、その名残とする説がある。(史跡横須賀城跡保存管理計画策定報告書第2章) これらの事から今回Bトレンチで確認した沼状遺構は、横須賀城のもっとも初期に松尾山・北ノ丸・本丸を防衛する防衛ラインの一部、つまり本丸の南東の三日月池・本丸東の牛池・本丸の北東で松尾山の南に位置する池沼・松尾山東の空堀と一つのラインでつながる訳である。この池沼は、牛池の北の延長部分であるように思われる。特に築城当初の主郭と言われる松尾山の南の懐に位置することが重要である。築城当初から初期頃まで、防衛の重要ラインとして活用されたこの池沼も、しだいに忘れられ埋っていき、城地拡大・三ノ丸造成時に完全に埋められて、あらたに三ノ丸の東側へ外堀が掘られたと考えられる。ただし、今回のトレンチ発掘では、池沼の向き等までは確認できなかった。

○ Cトレンチ

表土直下で粘土を5~10cm程の厚さに固めた三和土状の硬化面を検出した。この硬化面は、昭和60年度に発掘調査された西ノ丸周辺や、東大手門跡でも検出されており、いずれも建物跡に関する硬化面とされている。又この面から20~30cm程の河原石と瓦の破片が出土した。トレンチの西側を土層観察のために、1m程掘り下げたところ表土より40cm下から大きさ20~30cm程の河原石が検出された。

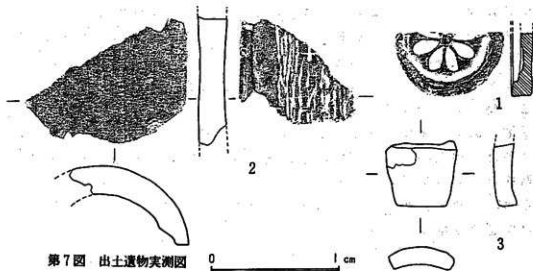
古絵図によれば、この付近に太鼓櫓が描かれているので、今回の調査で確認された硬化面や配石は、これらの遺構に関係しているかと思われる。

第4章 遺物

今回の調査では、Cトレンチから菊丸瓦・平瓦・丸瓦などが出土している。その内の大部分は、平瓦の破片である。以下実測出来たものについてのみ概要を述べる。

1. は花卉を陰刻する菊丸瓦であり、瓦当の直径は8.5 cmを測る。
2. は丸瓦であるが、その大部分は欠損している。外面は縦方向のへら削りが施され、内面には縦方向の粗い縄の圧痕がある。又焼成は頗る良好である。
3. は瓦の種類は不明である。全体をへらで撫で成形してある。

以上のように特に時期を決定できるものはなかった。



第7図 出土遺物実測図

第5章 まとめ

今回の調査で判明したあらたな問題点

1. 三ノ丸から外堀へ向かう法面が、従来考えられていたよりかなり西側で見つかった。この法面を外堀の法面と考えたいが、工場進出以前の事を知っている人によると、堀はかなり東から始まるとの事である。又古絵図を見ると三ノ丸の平坦面から堀までの間に土手状のものが描かれている。しかし、重機で法面を深く掘削した時の多量の出水からみても外堀の可能性は、非常に大きい。
2. Bトレンチで検出した沼状遺構は、横須賀城築城当初の姿を探るうえで、大変重要と考える。ただし、平坦面から落ち込む傾斜が城の堀として使うには、穏やかすぎる。したがって、自然の谷を築城時に埋めたとも考えられる。今回の調査で結論が導きだせなかったのは、甚だ残念である。

いずれにしても、今後の慎重な調査が望まれるところである。

文末になりましたが、調査に御協力いただいた富士電気化学(株)をはじめ地元のみなさん、又御教示を賜った菊川町教育委員会の水島和弘氏には深く感謝いたします。

参 考 文 献

- | | | |
|-----------|------|---------------------------|
| 大須賀町教育委員会 | 1984 | 「史跡横須賀城跡・保存管理計画策定報告書」 |
| 大須賀町教育委員会 | 1985 | 「史跡横須賀城跡・復元と環境整備のための基本計画」 |
| 大須賀町教育委員会 | 1986 | 「史跡横須賀城跡Ⅱ昭和60年度保存修理事業概要」 |
| 大須賀町教育委員会 | 1986 | 「史跡横須賀城跡 東大手門跡発掘調査報告書」 |
| 坪井利弘 著 | 1986 | 「図鑑瓦屋根・改定版」 |



Aトレンチ完掘状況（西から）



Aトレンチ土層写真、落ち込み部分



A.トレンチ落ち込み部分（南から）



Aトレンチ法面の竹根（南から）



Bトレンチ完掘状況（西から）



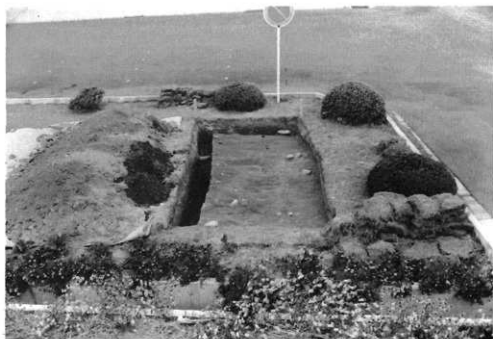
Bトレンチ落ち込み（西から）



Bトレンチ落ち込み（東から）



Bトレンチ沼状遺構（東から）



Cトレンチ完掘状況（南から）



Cトレンチ配石の出土状況（西から）



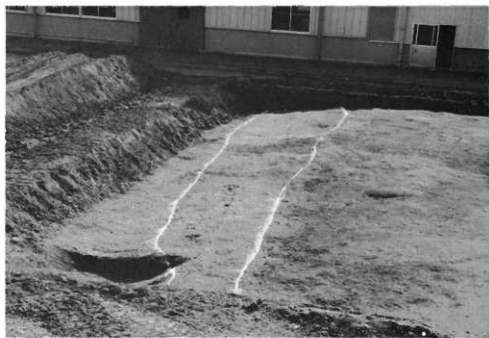
Cトレンチ土層写真(東から)



Aトレンチ拡張区全体写真(北から)



Aトレンチ拡張区全体写真（東から）



Aトレンチ拡張区落ち込みライン検出状況（北から）

横須賀城跡確認調査報告書

(富士電気化学 構 工場地内)

昭和62年1月31日

編集 大須賀町教育委員会
発行 静岡県小笠郡大須賀町西大洞100番地
〒437-13 TEL <053748> 3111

印刷 神楽原印刷所
大須賀町横須賀1445



